

ワックスの問題点

これまで、床面の美観維持・保護剤としては一般的に、「アクリルワックス」・「ウレタンワックス」が使用されてきました。しかし、このワックスはロウと樹脂の混合物であるため、次のような問題が発生していました

磨耗性・耐久性が低い

歩行などの外的圧力による剥離・ヒールキズ・光沢の低下・素材への損傷が発生しやすいため、耐久性が低い。

防汚性が低い

シミなどが付着しやすい。また、日常的な汚れも内部に持ち込んでいくため、層を重ねるたび汚れが蓄積していく。

変色する

洗浄～再塗布の繰り返しや紫外線の影響などにより、一定期間が経つと黄変・ビルドアップが発生する。結果、その度毎に剥離作業が必要になり、コストの増大にも繋がる

度重なる剥離作業による自然環境への悪影響

剥離作業の際に使用する剥離剤は、石油系化学薬品を含有しているため、自然環境への悪影響が懸念される。

VOC や環境ホルモン物質を含有

ワックスに含有されるスチレンは厚生労働省が室内濃度指針値を設定。

絶縁体の為、静電気の原因に

ワックス自体、電気を逃がさない絶縁体の為、静電気の原因に。

また、ワックス施工の中でも、現在主流になりつつある「ドライ方式」も短所があります。

手間・時間がかかる

基礎被膜造成の過程においては、下地処理をした後に約4層以上の重ね塗りが必要になります。また、層を重ねるには乾燥時間を1日間以上おかないといけないため、人員・材料費・施工日数とも非常にかかります。

新たに機材が必要

従来のウェット式と違い、施工には新たにいくつかの大型機器を購入しないとイケないため、導入コストが余計にかかる。

高度な技術の習得

ドライ方式を導入するには、ドライについて経験・知識が豊富な人員が必要になります。もしもない場合は、新たに施工を監督できる人員を育てなければならず、それが更に導入の難しさに拍車をかけています。

では、「リスタコートコーティングシステム」を導入すると、これらがどう変わるのでしょうか？
次ページからひとつひとつ検証していきましょう。